

令和4年度 地方創生関係交付金事業

地方創生関係交付金の種類		事業目的・概要								
地方創生拠点整備交付金		レインボーライン山頂公園は、美浜町・若狭町にとっては共通かつ随一の観光スポットであるが、1991年度の104万人をピークに年々入込客数が減少しており、2017年度の入込客数は約28万人となっている。入込客数の減少は、山頂公園だけでなく、周辺の観光施設や宿泊施設の利用者数の減少につながり、地域経済に大きな影響を及ぼしている。山頂公園の課題としては、風雨をしのぐ建築物等が少ない、気温や天候によって観光客が大きく落ち込む、くつろげる場所が少ないことから、訪問者の滞在時間や売店等での消費額が少ないことが挙げられる。そこで、レインボーライン山頂公園からの景観を生かした、展望建屋、山頂カフェ、山麓レストランなど全天候型・滞在型施設を整備し、山頂公園を通年で人々が集う観光交流の拠点とするとともに、カフェやレストランにおける消費や滞在時間の延長につなげる。また、この山頂公園を拠点として、両町をはじめ福井県内の観光施設や文化施設との連携を強化して観光周遊ルートを再構築するとともに、両町や福井県、近隣自治体と連携したプロモーション活動を積極的にを行い、観光客の周遊性の向上や両町での滞在時間延長を図り、地元の漁家民宿等の宿泊施設利用者の増加など地元消費の拡大につなげ、福井県全体の賑わいと交流人口の増加を目指す。								
地域再生計画名										
三方五湖に浮かぶ天空テラス整備計画 ～自然・人・文化をつなぐ天空の架け橋～										
No.	交付金対象事業名称									
1	三方五湖に浮かぶ天空テラス整備計画 ～自然・人・文化をつなぐ天空の架け橋～									
実施事業名		総事業費	交付金対象経費	財源内訳			実施内容			
				交付金	その他	一般財源				
1	三方五湖に浮かぶ天空テラス整備事業（R1事業）	152,635,950	149,062,393	74,531,196		78,104,754	山頂公園全体を大きく4つのエリア（中央エリア：山頂カフェ・トイレ・五湖テラス、東エリア：美浜展望建屋、西エリア：若狭展望建屋・茶屋テラス、山麓エリア：山麓レストラン）に分けて、それぞれ特徴ある空間整備を行う。整備主体を(株)レインボーラインとし、美浜町と若狭町で折半して整備費を補助する。整備後も、美浜町・若狭町と(株)レインボーラインが連携し、山頂公園を活用した誘客拡大や地産地消の促進等による農業・漁業の活性化に取り組む。			
重要業績評価指標（KPI）		単位	事業開始前	KPI	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	増加分累計
1	整備する山頂カフェおよび山麓レストランの売上	千円	13,250	目標値	0	10,000	5,000	5,000	5,000	25,000
				実績値	0	26,801	-3,320	19,671		43,152
2	山頂カフェや展望建屋を整備するレインボーライン山頂公園の入園者数	人	125,430	目標値	0	40,000	30,000	30,000	30,000	130,000
				実績値	0	53,392	-14,824	36,528		75,096
3				目標値						
				実績値						
事業効果		地方創生に非常に効果があった。								
今後の方針		リニューアル効果で30年前のピークに近い売上規模となっている。今後は施設で働く従業員教育などソフト面での充実を図り、ブランド力の向上と組織力の強化に努めていく。SNSを活用した情報発信にも積極的に取り組み、世界中の顧客に認められる施設、郷土の誇りと思える観光施設づくりを目指していく。								
評価		レインボーライン山頂公園は、若狭町や美浜町だけでなく、福井県が誇る観光スポットである。官民協働、広域連携の成果が現れつつあり、着実に実績を伸ばすことができていることに関係機関の努力を感じる。引き続き、さらなる地域活性化に期待する。								

令和4年度 地方創生関係交付金事業

地方創生関係交付金の種類		事業目的・概要								
地方創生拠点整備交付金		<p>若狭町の代表産業である観光は、1990年代をピークに入込客数が減少している。この要因として、観光ニーズの多様化と旅行スタイルの変化に合った取り組みや整備がこれまでできおらず、官民協働や広域連携による地域資源の利活用が十分なされていなかった。</p> <p>本事業は、若狭町・美浜町・(株)レインボーラインが連携し、レインボーラインが四方に三方五湖と若狭湾、大規模なリアス海岸が眺められる類い稀な立地特性を持ち、恋人の聖地として愛を繋いできた場所、また若狭地域は古代から御食国(みけつくに)として交易の拠点として栄えた歴史を踏まえ、地域内外の子どもからお年寄りまで多くの人々が集う観光交流拠点として、また、三方五湖エリアの魅力を発信する拠点として、さらに観光まちづくりのきっかけとなるよう、「自然と人と地域を繋ぐ」をコンセプトに整備する。</p>								
地域再生計画名										
かがやきのその先に「神秘の湖」広がるレインボーライン整備計画～自然・人・文化をつなぐ天空の架け橋～										
No.	交付金対象事業名称									
1	かがやきのその先に「神秘の湖」広がるレインボーライン整備計画～自然・人・文化をつなぐ天空の架け橋～									
実施事業名		総事業費	交付金対象経費	財源内訳			実施内容			
				交付金	その他	一般財源				
1	かがやきのその先に「神秘の湖」広がるレインボーライン整備事業 (R3事業)	252,648,354	245,907,254	122,417,246		130,231,108	<p>急激に増加している観光客数への対応や、より多くの地域特産品を取り扱うために、売店トイレ棟(65㎡)を撤去し、108㎡に拡大させた施設を新築する。</p> <p>また、増加する観光客対応、特に観光バス客の昼食場所として提供を可能とするため、三方五湖が見渡せる場所にレストラン棟を新築することで、混雑緩和やニーズに応えることで顧客満足度の向上や滞在時間延長による消費単価の増加に繋げる。</p>			
重要業績評価指標 (KPI)		単位	事業開始前	KPI	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	増加分累計
1	新築するレストラン及び売店の売上	千円	51,044	目標値	0	27,456	10,800	8,000	8,000	54,256
				実績値	0	37,029				37,029
2	新築する売店で地元産品の取り扱い商品数	商品	655	目標値	0	250	200	200	200	850
				実績値	0	-26				-26
3	レインボーラインの入込数	人	375,461	目標値	0	141,639	26,000	19,900	20,000	207,539
				実績値	0	-23,963				
事業効果		地方創生に非常に効果があった。								
今後の方針		リニューアル効果で30年前のピークに近い売上規模となっている。今後は施設で働く従業員教育などソフト面での充実を図り、ブランド力の向上と組織力の強化に努めていく。SNSを活用した情報発信にも積極的に取り組み、世界中の顧客に認められる施設、郷土の誇りと思える観光施設づくりを目指していく。								
評価		想定外のコロナ禍の中で整備事業が展開され、人流が懸念されたが、情報発信に努力し、メディアに取り上げられるようになったことを含めて、売上規模がピークの水準になったことは、官民そして地域が一体となった取り組みの成果だと考える。コロナ禍の影響を受ける中でレインボーライン全体の入込数は減少しているが、新築するレストラン及び売店の売上は伸びていることを評価する。								

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	福井県	事業実施主体	若狭町	地域再生計画名	里山と里海湖をつなぐ第1次産業活性化による交流人口拡大計画
計画期間	平成28年度～令和4年度	評価責任者	若狭町総合政策課長、建設課長		

	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績	指標総数		達成数			
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	交流人口の拡大（年間観光入込客の増加）	150万人	H26	—	—	183万人	155万人	R4	185万人	○	3	2	観光エリアの整備等の観光振興により、最終目標値を達成した。
	指標2	林業の振興と森林整備の促進（間伐面積の増加（倉見区域））	33ha	H27	—	—	45ha	58ha	R4	51ha	△			平成29年の台風21号による豪雨災害により、林道、作業道等が被災し通行できない状況になったことから目標を下回った。
	指標3	農業の振興（新規就農者数）	2経営体	H26	—	—	10経営体	10経営体	R4	12経営体	○			新規就農者支援事業等の支援施策により、最終目標値を達成した。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1													
	指標2													
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度（R1）	最終実績									
特別措置を適用して行う事業		わかさの資源で産業と地域を元気にするプロジェクト（新規就農・漁業者数）	2件	11件	13件	若者をターゲットに新たな就農希望者及び移住希望者を確保していくための事業を展開したことで、計画以上の新規就農者等の確保、育成に資することができた。								
		わかさの資源で産業と地域を元気にするプロジェクト（集落への新規定住者数）	2人	11人	12人	新たな就農希望者及び移住希望者に対して、地域への定着、安定した就農が実現するよう努めたことで計画以上の新規定住を図ることができた。								
		地方創生道整備交付金事業（観光地等までのアクセス改善）	25分	35分	33分	事業の整備量が計画に追いついていない状況であり、目標達成に向けた取り組みを強化し、引き続き実施していく必要がある。								
		地方創生道整備交付金事業（間伐面積（倉見））	58ha	45ha	51ha	豪雨災害により目標値を下回ったが、環境整備を適宜実施することにより、林業施策の効率化及び活性化並びに森林の多面的機能の維持・増進が図られている。								
その他の事業														
計画外で独自に実施した事業		森林整備地域活動支援交付金事業	森林施策の実施、集約化の地域活動に対して支援を行う		森林所有者等による施策の集約化や、森林施策の実施に不可欠な地域活動を実施するための経費について支援し、一体的に施策などを行うことを可能にすることで、効率的な林業活動につなげていくことができた。									
		森林環境保全整備事業	森林整備の促進のための取組みを進めていく		施策の集約化や路網整備を通じて、施策の低コスト化を図りつつ、計画的に行う間伐等の森林施策と、これと一体となった森林作業道の開設等を支援することで、森林の有する多面的機能の維持・増進を図ることができ、森林整備の推進に資することができた。									
		森林作業道開設事業	林業の促進のための環境整備として作業道の開設を支援		森林組合が、町内の民有林地での作業道等の開設・改良に対して補助を行うことで、林業労務の省力化と森林保全、間伐材利用の促進を図ることができた。									
		間伐材利用搬出促進事業	間伐材搬出を促進することにより林業振興を図る		民有林地における間伐材の搬出に要する経費の一部を助成することにより、建築資材や木質バイオマス発電等の様々な分野での木材の有効利用を促進することができた。									
		新規就農者支援事業	新規就農者の定住、安定経営を図る		新規就農者の経営初期に不足する所得等を確保し、経営投資への補助等も行いながら経営を安定させることで、次世代に繋がる地域農業者の育成を図ることができた。									
		広域観光事業	広域的な観光誘客を促進するための取り組みを進めていく		三方五湖を共有の観光資源とする美浜町と連携し、観光施設の整備や観光イベント、情報発信事業などにより観光誘客の促進を図ることができた。									
		農家民泊事業	宿泊型観光の受入を促進し、交流人口の拡大を図る		町内の農家に宿泊し、田舎暮らしの体験や農業体験を実施し、利用者に農業や自然を満喫していただくことで、交流人口の拡大に加え、新規就農、移住促進に結びつくことが期待できる。									
		次世代定住促進事業	移住定住の取り組みを促進し、人口増を図る		里山里山および里海湖周辺に存する空き家に対して、空き家バンク登録、リフォーム助成を行い、農山漁村の活性化を図ることができた。									
④評価方法	若狭町まちづくり評価委員会での地方創生関係事業に関する評価、検証を行う。													
⑤事後評価の公表方法	若狭町ホームページに掲載する。													
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、地方創生推進交付金と道整備交付金を活用した農業就農者の確保、育成と農業振興のための町道、林道の一体的整備の推進を一体的に行うことにより、地域間のネットワークが強化され、里山と里海湖をつなぐ第1次産業活性化による交流人口拡大を実現することを目的としている。交付金事業や町の独自施策により、コロナ禍の影響を少なからず受けながらも就農者数や定住者数は目標を上回り、町の中心的事業として交流人口の拡大、第1次産業の活性化に大きく寄与している。一方、観光地までの道路整備や森林整備においては、整備量が計画を下回っており、さらなる交流人口拡大に向け、取り組みを強化し、継続して事業を展開していく必要がある。													
⑦今後の方針等	農業就農者の確保や育成については今後も各種事業を継続して実施していく。また、農業振興のための町道、林道の整備については目標値を達成できていないことから、取り組みを強化し目標値達成に向けて引き続き事業を一体的に実施していくことで、計画目標としている地域間のネットワークを強化及び里山と里海湖をつなぐ第1次産業活性化による交流人口拡大を図っていく。													